

ラ フォレ セ ラ ヴィー ー森こそ命ー



La Forêt, C'est la Vie !



ヤルゴに架かっている橋兼用ダムの2ヶ所が崩れ、現在車の通行ができない。
(ブルキナファソ、6月)

昨年の雨期は、サヘル地域全体で降雨不足となり栽培穀物の成長が阻害された。加えてブルキナファソでは飛蝗（巡礼バッタ）の発生が加わり、穀物収穫に甚大な被害を与えた。今年の雨期は一転して降雨の開始が早く、5月4日にはすでに一雨降らせたものの、その後6月4日までまとまった降雨（86mm）が無かった。以後は、継続して降雨があり、雨量も充分であるため、穀物栽培に期待が持てる状況となっている。

しかしその反面、恵みといえる順調な降雨は、未舗装路の路面悪化やワジ（乾燥気候の地方にある、雨期にのみ水の流れる河川のこと）の拡大を招き、物資輸送の滞りによって、地方において食料や物品の価格高騰が続いている。一つの現象は、良い面だけではなく、弊害となる側面も有している。その両面を見つめながら、折り合いを探していく努力が、「生活＝生きていく」ということなのであらうとを感じる。

緑のサヘルの今後に向けて

去る4月20日、日本青年館において2005年度理事会が開催されました。この理事会では、2004年度活動報告など通常の内容の他に、代表交代の審議や「緑のサヘルの今後に向けての提案」が討議されました。依然として経済的に困難な状態にありますが、これまでの活動を通じて蓄積されている経験を土台にして、新しい手法の導入と一歩踏み越えた展開を目指していくつもりです。（理事会の詳細に関しましては、別冊をご覧ください。）

会員の皆様には、ご報告が大変遅くなりましたことをお詫び申し上げますとともに、今後ともご支援を賜りますようお願い致します。

1. 基本方針

サヘル地域の住民にとって、収穫不良や井戸の水位の低下・水枯れ、食糧不足等が、日常的に直面している現実です。また、薪材や食材集め、家畜飼料の調達等、日々の生活の営みは自らを取り巻いている身近な地域環境との密接な関係によって築かれています。このような相関関係から捉えた場合、地域環境の保全や回復に向けた取り組みは、住民生活そのものの保全・回復と言っても過言ではありません。

従って「緑のサヘル」の活動は住民生活の改善に通じる全てに及ぶこととなりますが、地域住民の生活に考慮しながらも、環境とのつながりの中で捉えて行く視点を失うべきではないと考えます。住民生活を改善するためには、様々な分野からのアプローチが可能であり必要ですが、「緑のサヘル」は環境面からの働きかけを重視して行きたいと考えています。

現在、事業実施地では生活改善につながる環境保全活動に関する技術・知識が、地域住民の間に幅広く浸透し実行されています。また元ローカルスタッフを中心に組織的な取り組みが展開出来るまでになっています。これは、多年に亘って現地に日本人スタッフを駐在させ、地域住民と共に活動してきたことの成果であり、「緑のサヘル」のこれまでのアプローチが誤っていなかったことの証でもあります。しかし、現地において住民が自らのペースで取り組んで行くことが支援活動の本来的な発展的解消であることを鑑みた場合、この成果をより先に進めるためには、支援活動の手法転換を図らなければなりません。

一方、団体の運営体質についても、経営という観点から自己資金調達能力の向上に努めなければなりません。これまでは非営利団体という位置づけに甘え、依存して来た感はありません。このような体質の改善を図るために、団体として蓄積してきた有形無形の財産が活用できるような収益事業を立案実行して行く積もりです。

2. 事業内容

現地の団体を資金面・人材面で支援することを主事業、他団体との提携もしくは委託による活動を副事業、調査・人材派遣等のコンサルタント業務を収益事業と位置付けたいと思います。将来的にはこの3タイプの事業で資金の調達、経験・実績の蓄積、本来業務を行ない、その不足を助成金・補助金で補う形にしたいと考えています。

1) 現地団体支援事業

現地には、現状に対する危機感と問題意識から組織されたローカル団体（NGO、組合、委員会等）が地域毎に多数存在し、活動実績を積み重ねています。このような団体は知識や技術を有しているものの、主として活動資金に悩まされているのが現状です。これまで現地に日本人スタッフを常駐させて事業を行なってきた経験（経緯）を踏まえた上で実施するローカル団体へ支援は、NGOが本領とする草の根レベルで行なう協力支援活動の到達点の一つであると考えます。

支援の対象となるローカル団体としては、環境保全を専門とする団体だけではなく、環境保全を目的としその実現に向けた生活改善活動に取り組んでいる団体も含まれます。実施に際しては、活動実態を調査把握するために現地を視察し、候補となるローカル団体と協議をし、支援内容を決定します。要請内容と協議の結果次第では、短期の日本人専門家派

遣も検討します。その際、ローカル団体側には活動計画書や報告書、会計報告書の作成と提出を義務付けることを条件とし、1年更新の単年度契約とします。また、緑のサヘル側としては、実際の活動状態を視察するために、必ず年1回の日本人専門家による現地出張を実施します。

この支援での財源は、会費や寄付金、またカレンダー販売やコンサルタント事業からの収益による自己資金で賄うことを原則とし、その範囲内で支援を行なう団体数と金額を決定します。助成金は、その補填と日本人スタッフの現地派遣に必要な費用を申請することになります。

2) 委託・提携事業

現在、チャドでは国連難民高等弁務官事務所との提携で、「スーダン難民キャンプおよび周辺地域における環境保全プロジェクト」が実施されており、ブルキナファソにおいても環境省の委託による「砂漠化対処のための地域密着型技術移転パイロット事業」が続けられています。双方ともに「緑のサヘル」の現地におけるこれまでの活動が評価されて打診を受けたものであり、これまでに蓄積した経験やノウハウが有効であること、これまで継続して来た開発支援事業と整合性があること等を考慮し、実施を決定しています。

この委託・提携事業は「緑のサヘル」にとっては、これまでの経験を活かした様々な活動が比較的小さな規模の持ち出しで実施出来るというメリットがあり、また団体としての新たな経験の蓄積、実績の積み重ねが可能な事業と言えます。これまで行なって来た活動や地域の特殊性を考えると、今後も他団体（国連機関、外務省、環境省、JICA、NGO等）との委託や提携による事業の可能性は充分にあり、それらに関しては状況や条件によって柔軟に考え、後述するコンサルタント事業への展開等も視野に入れて実施の可能性を追求して行きたいと考えています。

3) コンサルタント事業

スーダン難民の流入をきっかけとして、今年度より JICA がチャド東部のアベシエに事務所を構え、調査を開始しました。この JICA 事業には、緑のサヘルのチャド・プロジェクトにおいて調整員を3年間務めた成澤博が出向しています。また OB・OG の一部にも現地調査への参加依頼、専門家派遣の打診が寄せられています。フランス語圏のアフリカ諸国において活動を行ってきた経験と実績は、それ自体が活用出来る財産と言えます。これらを活かして、他団体からのコンサルタント依頼に積極的に応じて行くことにします。

このコンサルタント事業は収益事業と位置付けられていますが、当初から十分な信用を得て単独で依頼を獲得することが難しいため、既にこの分野で成功している企業とコンタクトし、協力を得ることで合意しています。



活動報告1

チャド共和国



ローカルスタッフ紹介

アベシエ事務所より

今年度のチャドのアベシエ環境保全事業は、現在 19 名のローカルスタッフと 2 名の日本人スタッフで運営されています。アドレ、ファルシャナ、ハジャラハディッドの 3 箇所で育苗所を運営しながら、ファルシャナにあるファルシャナキャンプ、ハジャラハディッドにあるブレジンキャンプとトレギンキャンプでスーダン難民への救援活動を行っています。

今回のニュースレターでは、アベシエの調整事務所で働くローカルスタッフを紹介いたします。アベシエ事務所では、HCR（国連難民高等弁務官事務所）との交渉、他の NGO パートナーとの話し合いなどを通して事業全般の調整を行っています。

ア ベ シ エ 組



《日本人スタッフ》

利川豊（写真左）
3月にブルキナファソから帰国後、6月から赴任。

佐藤裕美（写真右）
8月から赴任。自転車を購入し、豪快に走行中。

ハシブ：先日結婚したばかり。お坊ちゃんではありますが、仕事ぶりは決して見劣りしません。アシスタントアドミニストレーター（現地調整員補佐）という立場で、日本人スタッフを補佐しています。（写真・前列右）

フィデル：会計を担当しています。少々気弱なところがありますが、仕事はそつなくこなします。彼も近々結婚予定。（写真・後列中）

アリ：緑のサヘルがチャドで活動を始めて以来のスタッフです。去年は運転手でしたが、今年はアシスタントロジスティシャン（資機材担当）として物資の調達全般を担っています。（写真・中列中）

ムサ：今年3月から働き始めた運転手。チャドの東端ンジャメナから西端は国境付近の難民キャンプまで、ワジ（乾燥気候の地方にある、雨期にのみ水の流れる河川のこと）も悪路ものともしません。頼りになるドライバーです。（写真・後列右）

ブラヒム：今年8月から緑のサヘルの一員になった新しいスタッフです。無線のオペレーターとして、現場との橋渡しをしています。（写真・後列左）

マチュー：アベシエスタッフのお昼ご飯から、事務所内に居を構える日本人スタッフのお洗濯まで、活動を陰で支えてくれる家政夫さんです。（写真・前列左）

活動報告2

ブルキナファソ



ローカルスタッフ紹介

(Association des Jeunes de Tokabangou : タカバングウ村青年グループ)

ブルキナファソプロジェクト

瀬戸 進一

ブルキナファソで行っているプロジェクトは、現在1名のローカルスタッフと協力関係にある現地NGO、技官等、少人数で取り組んでいます。今回は、私たちが活動するタカバングウ村の住民組織および住民の紹介をしたいと思います。最初は、タカバングウ村の青年グループ (Association des Jeunes de Tokabangou : AJT、別名 Association Koyra Nafa)です。

1996年より開始したタカバングウ村のプロジェクトでは、活動の計画は村全体および長老たちと話し合いによって決められ、実際の主な活動は若者たちが行うという形をとっていたのですが、次第に同年(1996年)に設立したこの青年グループ、つまり活動実施者たちの組織と直接連絡をとりあう形に移行してきました。もちろん現在でも村全体との連携も継続して行われているのですが、決定権を持っていた長老たちのみでなく、実際に活動に従事する者たちと直接行う活動形態を重視した結果このような形になりました。特に緑のサヘルがそのように指導したわけではなく、長老による伝統的な地方自治体の運営形態から、若い世代が参加する形態へ移行する現地の変化が反映されたものです。今では若い世代に加え、女性たちも参加しつつあります。

現在この組織は、植林活動、食糧事情の安定を目的とした穀物銀行の運営をはじめとし様々な活動を行っており、今では村になくてはならない組織となっています。この組織の別名、Association Koyra Nafaは、Koyra (村) の Nafa (安定や平和) を意味する現地語からきており、実際その名にふさわしい働きをしています。



写真はこのグループの役員たちで、左から Seydou Ali (セイドゥ アリ)、Harouna Keiro (アルナ ケイロ、組織代表)、Housseini Soumana (ウセイニ スマナ)、Yeya Djibrilla (エヤ ジブリラ) です。この他2名を加えた6名で構成されており、100名を超える青年グループの活動の中心となっている人たちです。雨期における農業が主な生業となっている現地では、乾期には十分な活動がなく、多くの若者が出稼ぎに出ます。その中、こうして村に残って活動する若者たちがいるからこそ、出稼ぎを行うことができるとも言えます。役員は選挙によって決められますが、

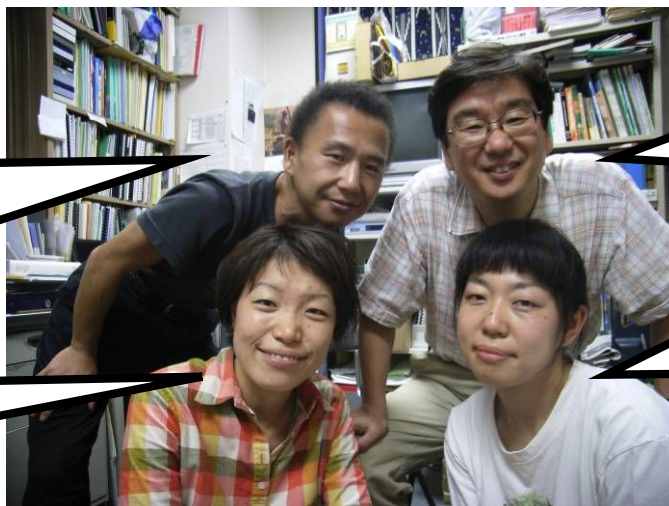
実際には苦勞が多いため、なかなか積極的になりたがる人は少ないのが現状です。今の代表 Harouna が3代目の代表です。彼ら若い世代がこれからのタカバングウ村を支え、そして発展させて行くのでしょうか。



東京事務局スタッフ紹介

岡本敏樹

4月から代表に就任。他のスタッフに気を配りつつ、毎日大量の仕事をこなしている。



菅川拓也

事務局長。いつも笑顔を絶やさない、明るい局長。

水真洋子

東京事務局スタッフ勤務。

佐藤裕美

7月に保険会社から緑のサヘル・アベシエ事務所へ気合の転身。「アフリカ初上陸で頑張ります！」

帰国したスタッフ

チャド共和国のアベシエ環境保全プロジェクトで活動していたスタッフが帰国しました。



← 大田 嗣

2004年10月から2005年6月まで現地に駐在。その明るいキャラクターから、現地スタッフの人気者。

竹越 久美子 →

2005年4月から9月まで現地に駐在。巧みにフランス語を使いこなし、現地スタッフからの信頼は大きい。



川崎市インターナショナルフェスタに参加しました

7月3日に『川崎市インターナショナルフェスタ』に参加しました。このイベントには以前当団体のボランティアでチャドを訪れたこともある関谷ご夫妻と、東京農業大学の学生さんのご支援を受けて参加しました。当日は、関谷夫妻が経営する「あさひや農場」で穫れた無農薬野菜とカレーライス、チャド共和国のジュース「オゼイユジュース」を販売しました。東京農大の学生の皆さんとボランティアさんが元気よく販売してくれたおかげで、カレーとジュースは完売！ジュースの反響は上々で、シソジュースに似ておいしいとのことでした。また、無農薬大豆の売上金全額をご寄付いただきました。関谷さん、東京農大の学生の皆さん、本当にありがとうございました。あさひや農場のおいしい無農薬野菜をご希望の方は、以下までお問い合わせ下さい。

《あさひや農場》 電話：0267-88-2869

URL：<http://www.d4.dion.ne.jp/~asahiya/top.htm>

遊びに来てください

10月、秋本番！！国際交流のお祭りの季節がやってきました。緑のサヘルも出店します。現地の写真や民芸品と共に、みなさまのご来場をお待ちいたしております。

日にち	イベント
10月1、2日 10時～17時	グローバルフェスタ JAPAN2005 【場所】日比谷公園 http://icf.visitors.jp/g_festival/
10月15、16日 10時～16時	江東区民まつり 【場所】都立木場公園

ありがとうございました

【 新規会員のみなさま 】

加藤 洋一朗

【 継続会員のみなさま 】

高松 千枝子／小川 あい子／菊山 ひじり／岡本 美智子／中山 祐介／魚住 道郎／亘 友子／加藤 洋一朗／手嶋 康／大池 良平／川村 陽一郎／綱島 孝／山田 和也・稚佳江／鈴木 寿一／小松義夫・衛子／梅田 登／津川 安正／大枝 純・美智子／上野 幸子／河村 ミヨ子／武内 進一／室井 光子／小池 昌子／蔵品 泰治／向後 元彦／（特活）アユス仏教国際協力ネットワーク／久保誠電気興業株式会社／河合 令子／佐々木 順子／瀧井 宏臣／小幡 光子／田中 京子／佐藤 京子／青柳 忠浩／佐賀 明子／小林 盛治／那口 真理子／石本 雄大／松本 キミ子／佐々木 仁／佐々木 セツ／徳永 美和子／門村 浩／天野 洋子／郷保治／株式会社ホーム創建／野々山 富雄／豊田 稔／北川 華子／中島 恵美／滝川 なおみ／川添 三郎・良子／佐貫 眞木子／オハヨー乳業株式会社／大森 恵子／中川 モト・昭一／曾山 卓司／石山 精一・禎子／塩澤 拓夫／田中 洋介／田辺 諄児／中野 智之／高橋 まり子

【 ご寄付を頂きました。ありがとうございました。 】

清水 敬秀／染谷 貞夫／山崎 鉄也／井上 茂／秋山 智聖／古川 哲朗／岡田 光悦／理恵子・雄慈・智寛／手嶋 康／佐々木 剛／渡邊 一木／福川 佐代／村上 和代／山内 康生・スエ／もりぐち おさむ／小林 伸張／田中 京子／窪田 寿恵／金 明希／服部 和美／徳山 高光／鶴崎 恒雄／小枝 清子／天野 洋子／三浦 貞彦／国岡 裕子／本多 れい子／滝沢 みさを／滝川 なおみ／米原 すみ子／石塚 由紀子／田辺 諄児／榎本 みつ枝／加藤 正博／中村 美和子

【 助成団体からの助成金 】

日本経団連自然保護基金／財団法人 地球・人間環境フォーラム／社団法人 国際農林業協力・交流協会／財団法人 国際緑化推進センター／財団法人 イーオン環境財団／毎日新聞社会事業団／財団法人 地球市民財団／特定非営利団体 アユス仏教国際協力ネットワーク

（敬称略、入金順）

上記は2005年6月2日から2005年8月31日までにご支援いただいた方の芳名であり、9月1日からご支援いただきました方につきましては次号の掲載とさせていただきます。また、お名前の公開を承諾された方のみを掲載いたしております。あらかじめご了承下さい。

事務所を訪問してくれた中学校の皆さん

東京都葛飾区立桜道中学校

（スタッフの話を聞く生徒の皆さん）



訪問させていただいた学校

岩手県盛岡市立永井小学校・大阪府寝屋川市立梅が丘小学校

大阪府高槻市立第七中学校

京都府立園部高等学校

事務所訪問や講師派遣のご依頼は、事務局までお気軽にお問い合わせ下さい。

ボランティアさん、ありがとう！

緑のサハルの国内活動は、ボランティアのみなさんに支えられています。毎週来てくださる方や、イベントへの出店の際に積極的に参加してくださる方もいます。8月は中学生のボランティアが3人訪れ、ポスター作りや、今回のニュースレターの発送を手伝ってくれました！

おしらせ

書き損じ葉書で国際協力しませんか？

書き損じ葉書、使わなかった古い年賀状などを大募集しております。1枚でもかまいません。どうぞ緑のサヘルにご寄付下さい。いただいた葉書は、新品と交換もしくは換金し、活動に利用させていただきます。

昨年から今年9月までに届いた書き損じ葉書は300枚以上(15,000円分以上)に上ります。これらの葉書の一部は、報告会の広報等で大切に利用いたしました。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

絵葉書 プルキナファソからの便り

第47回産経児童出版文化賞受賞の小松義夫氏の作品による緑のサヘル特製プルキナファソ絵葉書も発売中です。

穀物を風で選り分ける婦人の姿が特徴的なAセット、タカバング村の少女も収められたBセットの2種類があります。また、今年からは一枚からでも販売しております。ご注文は緑のサヘル事務局までお願いいたします。なお、売上は活動費に充てられます。

価格400円/1セット(4枚)

100円/1枚

※ 郵送ご希望の場合、郵送料は別途申し受けます。

カレンダー販売について

2006年のカレンダーが出回る時期となりました。緑のサヘルも2006年のオリジナルカレンダーを販売いたします。今回のテーマはサヘルに生きる人々の姿です。昨年に引き続き、世界各国の人々の暮らしを撮り続ける写真家・小松義夫さんと、季刊紙「旅行人」の編集長・蔵前仁一さんのご協力頂き、サヘルの人々の日常風景を一枚のカレンダーに納めています。カレンダーの販売は、チラシや書店、インターネット等で11月上旬から開始する予定です。どうぞご期待下さい。

【目次】

- | | |
|-----------------|-----------|
| 1……はじめに | 6……国内活動報告 |
| 2……緑のサヘルの今後に向けて | 7……ありがとう |
| 4……チャド活動報告 | 8……お知らせ |
| 5……プルキナファソ活動報告 | |

編集後記

大きな台風の上陸が続きます。被災地の一刻も早い復興をお祈りしています。(岡本) / いつもながら東京の蒸し暑さには言葉もありません。ある意味アフリカより厳しいかも……。 (菅川) / 秋到来！日本の四季の美しさは世界一だと感じる今日の頃です。(水真)

お歳暮どうぞ

ハケ岳農場の特産品

ハケ岳中央農業実践大学校の特産品がさらに充実しました。これまでの手作りチーズとアイスクリームに加えて、チーズケーキ、カレー、ソーセージなどハケ岳の新鮮な材料と確かな技術から生まれた品々が勢揃いの10セットです。各地への送料を含めた価格は下記の表にございます。大学校のご厚意により、お求めごとに定価の20%が当会に寄付されます。

【お申し込み方法】 郵便振替用紙にご依頼様とお届け先様のご住所、氏名、電話番号、ご希望セット名と数量をご明記の上、下記までお振り込みください。

00140-9-50425「緑のサヘル」

お振り込みから到着まで10日程かかります。

		関東 信越 北陸 中部 南東北	関西 北東北	中国	四国	北海道 九州	沖縄
A	アイス10個	3,800	3,900	4,010	4,110	4,210	4,420
B	アイス20個	6,400	6,500	6,610	6,710	6,810	7,020
C	チーズ	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800
D	アイス / ケーキ2種	3,800	3,900	4,010	4,110	4,210	4,420
E	ムース	4,930	5,030	5,140	5,240	5,340	5,550
F	ケーキ	4,930	5,030	5,140	5,240	5,340	5,550
G	カレー / チーズ★	5,000	5,100	5,210	5,310	5,410	5,620
H	ケーキ2種	3,230	3,330	3,440	3,540	3,640	3,850
I	カレー	3,580	3,680	3,790	3,890	3,990	4,200
J	チーズ / ソーセージ	5,730	5,830	5,940	6,040	6,140	6,350

★前回のニュースレターでご紹介したGセット「カレー／ケーキ」は「カレー／チーズ」の誤りでした。訂正の上、お詫び申し上げます。

内容の詳細は、同封のチラシをご覧ください。

La Forêt, C'est la Vie ! Vol. 24

編集 岡本 敏樹、菅川 拓也、水真 洋子／発行 岡本 敏樹／発行所 緑のサヘル／印刷 社会福祉法人 東京コロニー

〒136-0076 東京都江東区南砂2-2-7 日本創造教育研究所ビル3F TEL:03-5632-3029/FAX:03-5632-3070

HomePage : <http://www.jca.apc.org/~sahel/> E-mail : sahel@jca.apc.org